

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(五大石油会社の業績比較:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/ExxonShellBp.html> )

(石油:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/oil.html> )

マイライブラリー:0393

(注)本稿は2016年11月7日から13日まで5回に分けて「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

2016.11.16

前田 高行

### 全社で業績回復基調:五大国際石油企業2016年7-9月期決算速報

目次	頁
1. 五社の7-9月期業績比較	2
2. 2015年第1四半期以降の四半期別業績の推移	5

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の7-9月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益、売上高利益率、設備投資および石油・天然ガス合計生産量の五項目について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

<http://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-earns-27-billion-third-quarter-2016>

Shell:

<http://www.shell.com/investors/financial-reporting/quarterly-results/2016/q3-2016.html#iframe=L2ludmVzdG9ycy9maW5hbmNpYWwtcmVwb3J0aW5nL3F1YXJ0ZXJseS1yZXN1bHRzLzIwMTYvcTMtMjAxNi9qY3I6Y29udGVudC9wYXIvaWZyYW1lZGFwcC5zdGF0aWMvcTMtMjAxNi9yZXN1bHRzLXRhYmxlLmh0bWw=>

BP:

<http://www.bp.com/en/global/corporate/press/press-releases/third-quarter-2016-results.html>

Total:

<http://www.total.com/en/media/news/press-releases/third-quarter-and-first-nine-months-2016-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-reports-third-quarter-net-income-of-1-3-billion>

なお前期(2016年4-6月期)及び2008年から2015年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0385OilMajor2016-2ndQtr.pdf>

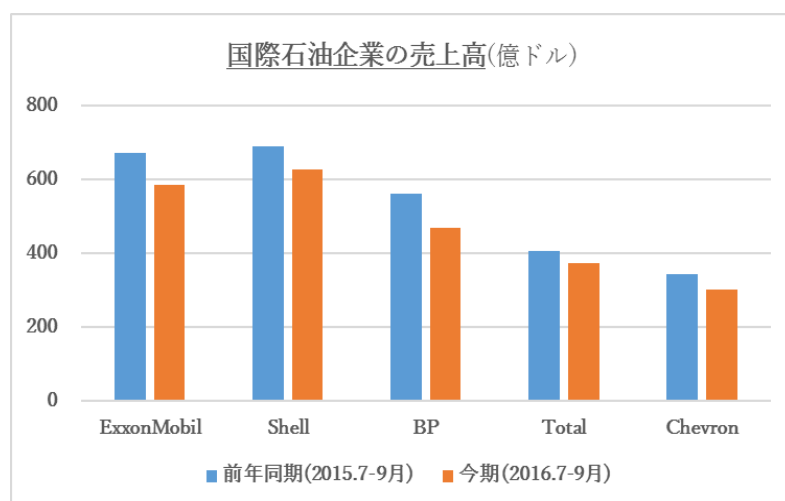
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0372OilMajors2015.pdf>

## 1. 五社の7-9月期業績比較 (末尾表:1-D-4-22 参照)

五社を横並びで比較すると売上高ではShellがトップであり、利益はExxonMobilが最も多い。また設備投資はShellが最も多く、石油および天然ガスを合わせた生産量ではExxonMobilがトップである。売上高利益率はTotalが最も高い。

(売り上げは前年同期比1割前後の減少！)

### (1) 売上高



2016年7-9月の売上高は5社ともに前年同期に比べ1割前後の減収であった。これは言うまでもなく原油価格が下落したためである。因みにShellの決算資料で見ると、昨年第3四半期はバレル当たり平均45ドルであったものが、今期は40ドルと1割近く下がっている。2011年あるいは2012年の年間平均価格は100ドルを超えており価格は

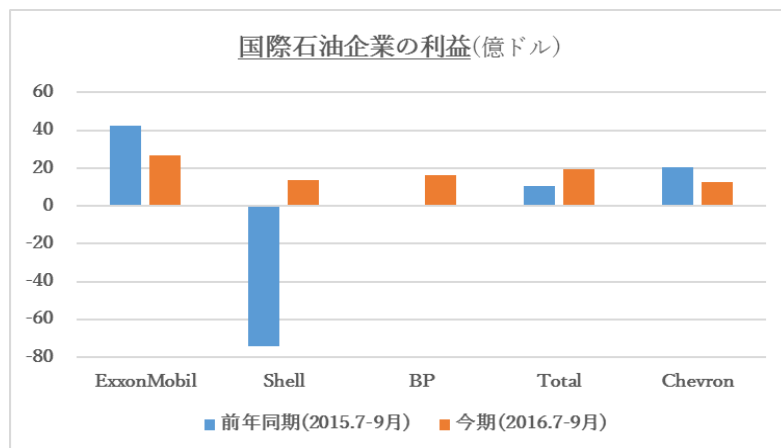
ピーク時の2分の1以下である。原油価格の下落がそのまま各社の売上高減少に反映されたと言えよう。

各社の売上高および対前年同期の減少幅は、ExxonMobilが587億ドル(13%減)、Shell629億ドル(9%減)、BP 470億ドル(16%減)、Total 374億ドル(8%減)、Chevron 301億ドル(12%減)で、5社の中ではBPが最も大きく落ち込んでいる。

### (2) 利益

利益が5社の中で最も多いのはTotalの21億ドルであり前年同期比3割減である。これに次ぐのがExxonMobilの17億ドルであるが前年同期(42億ドル)の4割にとどまっている。Shellは2社よりもさらに利益が低く12億ドルで前年同期の3分の1以下である。BPとChevronの両社は欠損であり、今期の欠損額は共に-14億ドル台である。BPは前期が58億ドルの大幅な赤字であったが今回は改善されており、Chevronは前期の黒字(6億ドル)から一転して赤字に転落している。

利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)で比較すると、ExxonMobil は上流・下流部門の利益がそれぞれ3億ドル、8億ドルであり下流部門の利益が上流部門の約3倍である(なお上記各社の総合利益には石油化学品部門あるいはその他の損益を含んでいるため上・下流部門の利益の合計額とは一致しない)。

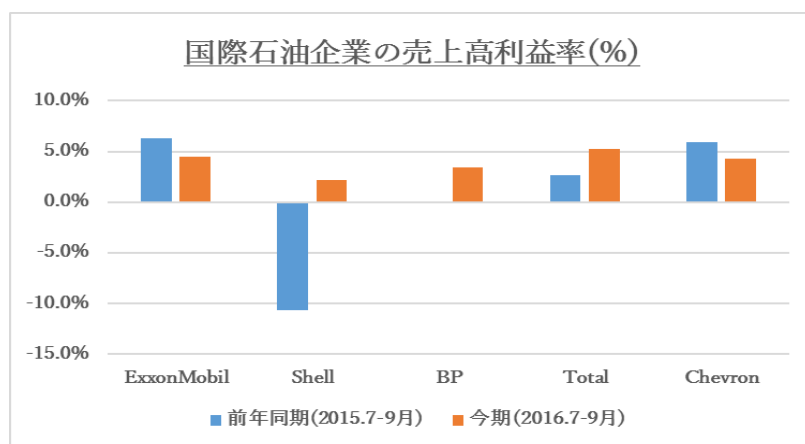


Total は上流部門の利益(11億ドル)と下流部門の利益(10億ドル)がほぼ同じである。上下両部門で利益を上げたのはExxonMobilとTotalの2社だけであり、Shell、BP及びChevronの3社はいずれも上流部門が欠損であるのに対して下流部門が利益を計上している。このうちShellの上流部門は20億ドルの赤字、

下流部門は17億ドルの黒字である。Chevron は上流部門の赤字が25億ドルに対し下流部門の利益は13億ドルにとどまっている。BP は上流部門が-1億ドル、下流部門は+14億ドルで差し引きでは黒字であるが、今期もメキシコ湾汚染事故処理の負担が発生したため全体としては赤字である。

このように Total を除く4社はすべて下流部門の利益が上流部門のそれを上回っており、下流部門が上流部門を支えている状況である。国際石油企業の利益構造はこれまで利益の大半を原油・天然ガスの生産(上流部門)で稼ぎ、精製、石油化学など(下流部門)の低収益を補うという構図であったが原油価格の大幅な下落により収益構造が様変わりしている。即ち上流部門の利益が急減する一方、精製、石油化学部門は原料の原油・天然ガス価格が急落したため利益の出る体質に変化したのである。

**(3) 売上高利益率** (図: <http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-53.pdf> 参照)

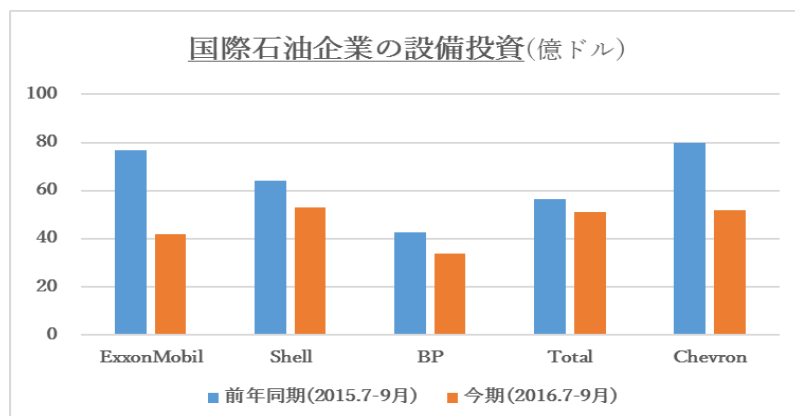


売上高利益率は Total が5.6%と最も高く、ExxonMobil が2.9%で続いている。Shell の利益率は1.9%にとどまり BP 及び Chevron はマイナス(それぞれ-3.1%、-5%)である。前年同期の各社の利益率は Chevron6.6%、ExxonMobil5.7%、Shell5.4%、Chevron1.4%であり、BP はマイナス9.

6%で同社以外はプラスの利益率であった。5社は好調時には10%台と言う高い利益率を誇って

いたこともあるが、近年各社の利益率は急速に悪化している。

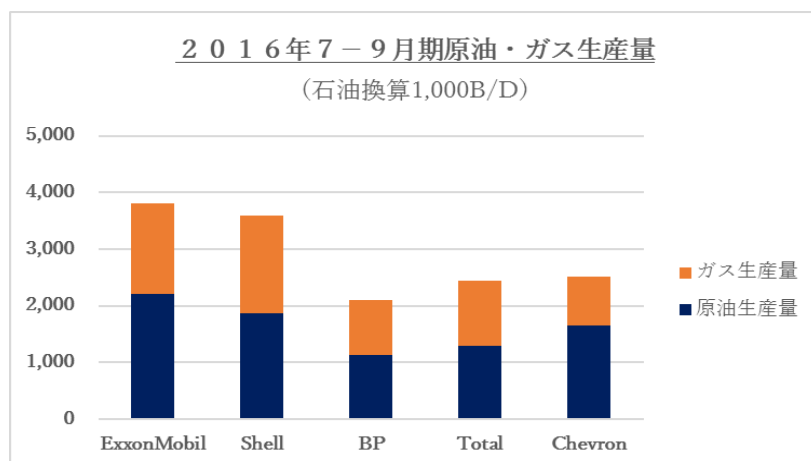
#### (4) 設備投資



2016年4-6月期の各社の設備投資額は Shell が58億ドルと最も多く、Chevron が55億ドルでこれに続いている。第3位のExxonMobilの投資額は52億ドルである。また BP は43億ドル、Total は最も少ない38億ドルにとどまっている。前年同期と比べると各社とも減少しており、

特に ExxonMobil および Chevron は三分の2程度にとどまっている。Total は18%減、BP 及び Shell は5~6%減である。低迷する石油市況を受けて各社とも設備投資には消極的な姿勢が見える。

#### (5) 原油・ガス生産量



今年4-6月の原油生産量はExxonMobilが平均日産量233万バレル(以下 B/D)で5社の中では最も多い。その他の4社はShell 175万 B/D、Chevron 169万 B/D、Total 125万 B/D、BP 110万 B/DでBPは5社の中では最も少なくExxonMobilの二分の1以下である。ExxonMobilは世界各地で万遍なく原油生産をおこなっており他社を圧倒している。前年同期と比較すると Shell は22%増と際立って増加しており、他の4社は大きな変化はなく、BP 及び Chevron はわずかながら減少している。

天然ガスの生産量は Shell が102億立方フィート(以下 cfd)と最も多く、わずかの差でExxonMobil(98億 cfd)が続いている。残る3社は Total65億 cfd、BP57億 cfd、Chevron50億 cfdと上位2社の5乃至6割前後である。前年同期に比べると Shell は36%増と大幅に伸びた一方、ExxonMobilは4%の減少となった。その他3社は Total が9%増、BP 及び Chevron は微減となっている。

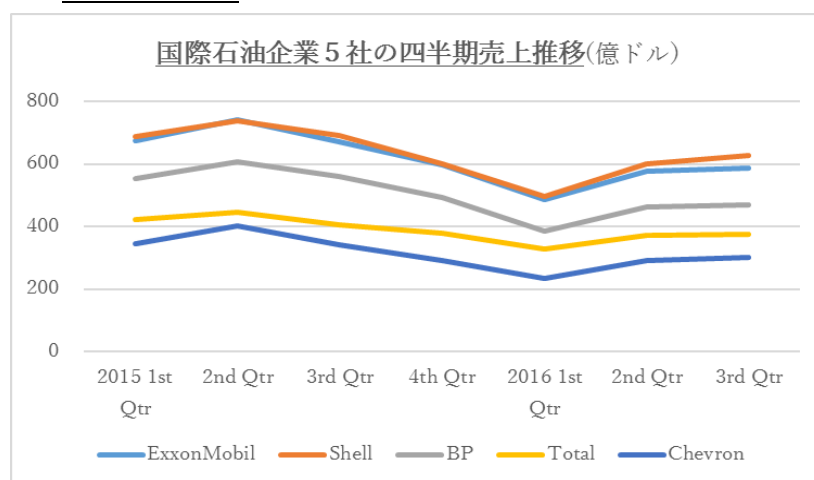
天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量ではExxonMobilは395万 B/Dでこれに次ぐのがShellの351万 B/Dである。その他の3社は Chevronが253万 B/D、Total 242万 B/D、

BP209万 B/D である。石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油59%、天然ガス41%であり石油の比率が高い。BP、Total および Chevron3社も同様に原油生産量が天然ガス生産量を上回っており、特に Chevron は石油67%対天然ガス33%と石油が天然ガスの2倍以上である。これに対して Shell は原油・ガス生産量が共に50%と均衡している。Shell は英国の BG を買収しており、重点を天然ガスにシフトしつつある。

## 2. 2015年第1四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資に関する2015年1-3月期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

### (1) 売上高の推移



2015年第2四半期をピークとして5社の売上高は3期連続で減少したが、前期2016年第1四半期を底に今期は若干上向いている。各社の2015年第2四半期売上高と今年第1四半期および第2四半期の売上高を比べると、ExxonMobil は741億ドル→487億ドル→577億ドル、Shell

は740億ドル→497億ドル→603億ドル、BPは606億ドル→385億ドル→464億ドル、Totalは447億ドル→328億ドル→372億ドル、Chevron404億ドル→236億ドル→293億ドルである。各社とも売上高は最悪期を脱して昨年第4四半期のレベルまで回復している。

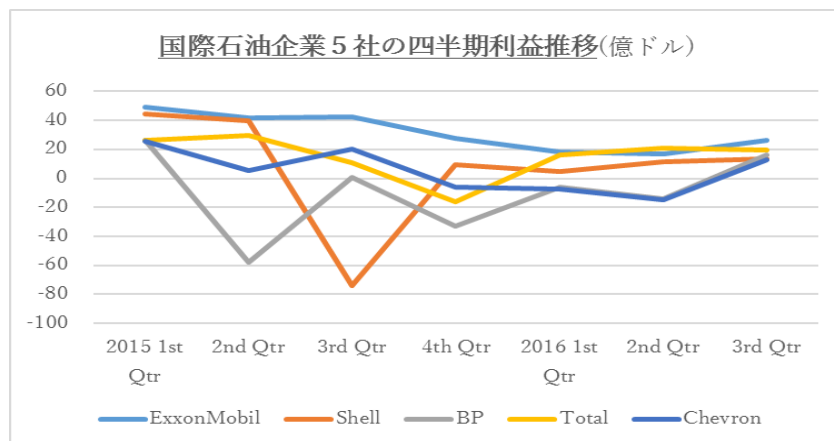
これは言うまでもなくこの間に原油価格が大幅に上下動したためであり、この間の四半期平均原油価格の推移を Shell の決算資料で見ると55.84ドル/バレル(2015年第2四半期)→45.22ドル/バレル(同第3四半期)→38.81ドル/バレル(同第4四半期)→29.49ドル/バレル(2016年第1四半期)→39.59ドル(同第2四半期)となっている。各社は販売価格の落ち込みを生産量でカバーしようと努力し(前項「原油・ガス生産量」参照)、売上高は価格の下落幅以下に抑えたが売り上げの落ち込みは避けられなかった。

### (2) 利益の推移

#### (2-1) 全体利益水準の推移

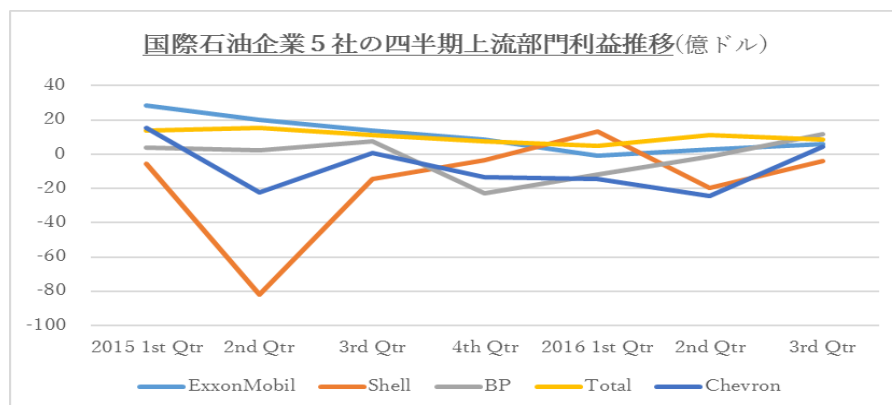
過去5期の四半期ごとの利益水準は各社によって異なるものの、全体を通してみると下落傾向にあると言って良く、また ExxonMobil 以外の4社は1期またはそれ以上の複数期で欠損を出している。2015年第1四半期は ExxonMobil の49億ドルを筆頭に5社ともに利益を計上したが、ExxonMobil のその後の利益は減少を続け今期は17億ドルにとどまっている。

ExxonMobil と同程度の売上規模である Shell は第3四半期に74億ドルと言う巨額の欠損を記録している。その後業績回復の足取りは遅く利益水準は一桁前後(前々期:9億ドル、前期:5億ドル、今期12億ドル)に低迷している。



BP は6期のうち4期がマイナスであり、特に最近3期連続して欠損である。Chevron も同様に3期連続の赤字である。Total はExxonMobil を除く4社と比較すると増減幅は小さいが、利益は低迷状況が続いている。

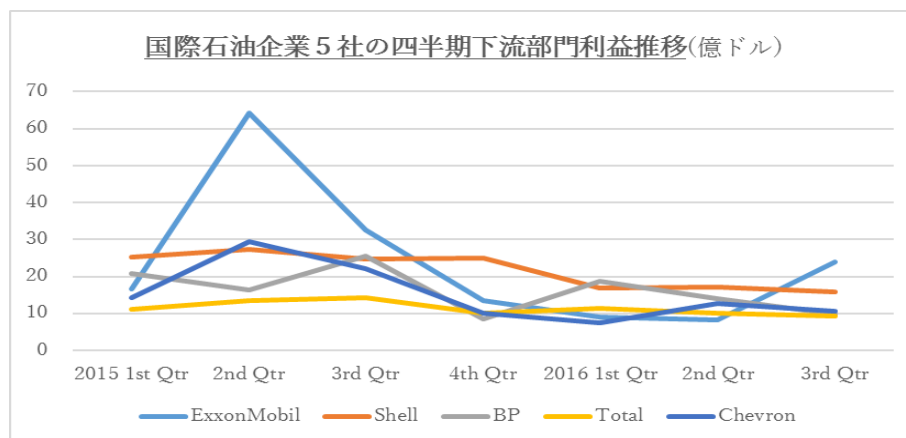
## (2-2) 上流部門



5社の上流部門の利益はいずれも下流部門の利益に比べて見劣りし、BP 及び Chevron が3期連続で赤字を出しており、Shell は6期中5期が赤字であった。ExxonMobil も前期(2016年第1四半期)は赤字であり、6期間で赤字を計上しなかったのは Total だけであった。過去6期間で最も大きな黒字を出したのが ExxonMobil の2015年第1四半期29億ドルであったのに対して赤字では Shell が2015年第2四半期に82億ドルの赤字を出すなど非常に厳しい状況である。

過去6期間で最も大きな黒字を出したのが ExxonMobil の2015年第1四半期29億ドルであったのに対して赤字では Shell が2015年第2四半期に82億ドルの赤字を出すなど非常に厳しい状況である。

## (2-3) 下流部門

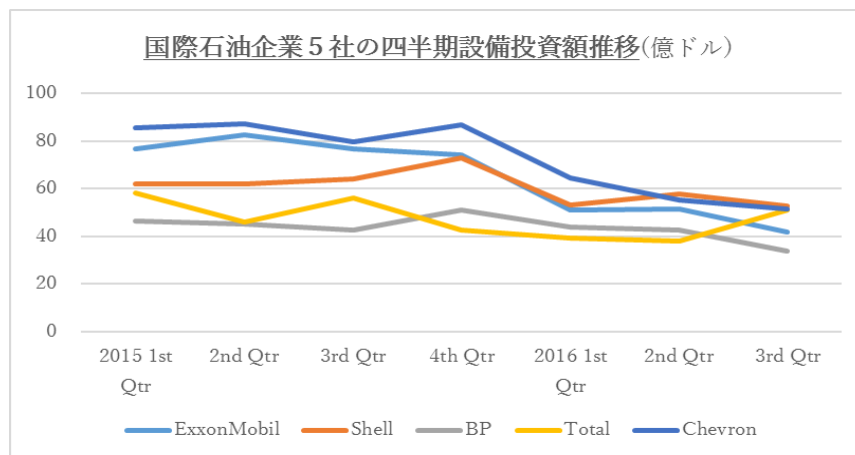


これに対して下流部門は全社が全6期間を通じて安定した利益を出している。特に ExxonMobil は昨年第2四半期に上流部門の3倍以上の64億ドルの利益を上げている。Shell の場合昨年は25億ドル前後の安



定した利益を計上しており、今期も2期連続で17億ドルの利益であった。Total もコンスタントに10億ドル台前半の利益水準を維持している。各社とも原料となる原油の価格が年間を通じて低く推移したことにより下流部門の利益を確保している。

### (3)設備投資の推移



5社の四半期の設備投資額は100億ドルを下回る低い水準が続いており、また期を追うごとに投資額が減少する傾向にある。ExxonMobil の場合は昨年1-3月期の77億ドルに対して今年第一、第二四半期とも50億ドル強にとどまっている。Totalも同様に昨

年1-3月期の58億ドルから今年第一、第二四半期はいずれも40億ドル弱である。Chevron は5社の中では最も高い水準の設備投資を続けており、昨年は80億ドル台の設備投資であったが、今年に入って急減し今期の投資額は55億ドルにとどまっている。Shell および BP の設備投資は各期の変動が比較的少なく、Shell は60億ドル前後、BP は40億ドル台の設備投資を続けている。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
 Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
 E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

## 2016年7-9月期国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高(百万ドル)	2016年7-9月	58,677	62,938	47,047	37,412	30,140
	前年同期	67,344	69,184	56,152	40,580	34,315
	増減(%)	-12.9%	-9.0%	-16.2%	-7.8%	-12.2%
総合損益(百万ドル) (*)	2016年7-9月	2,650	1,375	1,620	1,954	1,283
	前年同期	4,240	▲ 7,416	46	1,079	2,037
	増減(%)	-37.5%	-118.5%	3421.7%	81.1%	-37.0%
上流部門損益(百万ドル)(*)	2016年7-9月	620	▲ 385	1,196	877	454
	前年同期	1,358	▲ 1,454	743	1,107	59
	増減(%)	-54.3%	-73.5%	61.0%	-20.8%	669.5%
下流部門損益(百万ドル)(*)	2016年7-9月	2,400	1,596	978	917	1,065
	前年同期	3,260	2,481	2,562	1,433	2,211
	増減(%)	-26.4%	-35.7%	-61.8%	-36.0%	-51.8%
売上高利益率(%)	2016年7-9月	4.5%	2.2%	3.4%	5.2%	4.3%
	前年同期	6.3%	-10.7%	0.1%	2.7%	5.9%
設備投資(百万ドル)	2016年7-9月	4,190	5,282	3,379	5,116	5,175
	前年同期	7,670	6,412	4,270	5,630	7,965
	増減(%)	-45.4%	-17.6%	-20.9%	-9.1%	-35.0%
原油生産量(1,000B/D)	2016年7-9月	2,211	1,870	1,128	1,290	1,661
	前年同期	2,331	1,528	1,106	1,241	1,678
	増減(%)	-5.1%	22.4%	2.0%	3.9%	-1.0%
ガス生産量(100万 cfd)	2016年7-9月	9,601	10,004	5,695	6,286	5,113
	前年同期	9,524	7,837	5,864	6,003	5,165
	増減(%)	0.8%	27.7%	-2.9%	4.7%	-1.0%
同石油換算(1,000B/D)	2016年7-9月	1,600	1,725	982	1,153	852
	前年同期	1,587	1,352	1,136	1,101	861
	増減(%)	0.8%	27.6%	-13.6%	4.7%	-1.0%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	2016年7-9月	3,811	3,595	2,110	2,443	2,513
	前年同期	3,918	2,880	2,242	2,342	2,539
	増減(%)	-2.7%	24.8%	-5.9%	4.3%	-1.0%

\* 総合損益には石油化学部門あるいはその他の損益を含むため、上流部門・下流部門損益の合計額とは一致しない場合がある。